

馬込 I 遺跡・馬込 II 遺跡・黒川山遺跡

発掘調査報告書

秋田市金足黒川地区における産業廃棄物処理
場建設計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

株式会社 黒川産業
秋田市教育委員会

調査の概要

調査に至るまでの経過

株式会社黒川産業（秋田市八橋新川向5-30 新川ビルC号 代表取締役 阿部隆好）は、秋田市金足黒川地内に産業廃棄物処理場（安定型）建設工事を計画した。しかし、産業廃棄物処理場搬入道路計画路線内に、馬込Ⅰ遺跡、馬込Ⅱ遺跡（秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書 1989年3月 秋田市教育委員会）が、存在していることから、秋田市教育委員会に範囲確認調査を依頼し、今後のことを検討することにした。

秋田市教育委員会は、平成3年5月、両遺跡に範囲確認調査を実施し、工事計画地内の遺跡の範囲を確認した。

これに対し、黒川産業は、搬入道路計画路線を一部修正し、馬込Ⅰ遺跡については、範囲確認調査で、造構、遺物が確認されなかつた地区を通過し、馬込Ⅱ遺跡については、遺跡外へ変更となった（図1）。

しかし、この計画変更の結果、現段階では、埋蔵文化財が確認されていないが、地形的に再度の分布調査を必要とする地区があるため平成5年5月、試掘調査を実施した。その結果、一部、土壤、赤褐色土器等が確認され（黒川山遺跡）、調査区を拡張し、道路計画地内の遺跡の拡がりを確認し、調査を終えた。

調査時期と体制

○馬込Ⅰ遺跡及び馬込Ⅱ遺跡

調査時期 平成3年5月

調査主体者 株式会社黒川産業

調査担当者 秋田市教育委員会

調査員 小松正夫 日野久 西谷隆 松下広博

（秋田市教育委員会文化振興課秋田城調査事務所）

○黒川山遺跡

調査時期 平成6年5月11、12日

調査主体者 株式会社黒川産業

調査担当者 秋田市教育委員会
調査員 石井岡誠一 納谷信広 (秋田市教育委員会文化振興課)

調査の方法と経過

馬込Ⅰ遺跡については、3mグリッドを、馬込Ⅱ遺跡、黒川山遺跡には、幅1mのトレンチを数本設定し、調査を行った(図2~4)。

馬込Ⅰ遺跡

丘陵部西部の南向きの緩斜面に位置する。道路計画路線内に3m×3mのグリッドを東西2列に、合計10ヶ所設置した。東から3番目の北側のグリッドから赤褐色土器、須恵器が出土し、竪穴状遺構、土壌が確認されたため、南北方向に拡張して範囲を確認した。

遺構と遺物

1号竪穴状遺構

南北約2.6m、東西約2.8mの方形の竪穴状遺構であり、確認面からの深さは約30cmで、ほぼ垂直に掘りこまれている。埋土は、上層には、焼土ブロックが、下層には鉄分が混入している。また中央部に長軸約1.5mの椿円状に炭化物が堆積していた。

埋土から、赤褐色土器、須恵器が出土した。第図1は、壺形の須恵器の口縁部破片である。肩部を中心に自然釉(緑釉)が認められた。

1号土壌

確認面からの深さ約40cmの細長い土壌である。掘り下げた結果、4基の土壌が切りあっていることが確認された。埋土から、赤褐色土器、須恵器が出土した。いずれも小破片である。

遺構外出土遺物

赤褐色土器、須恵器が出土した。割合は、赤褐色土器が、圧倒的に多い

が、焼成は不良でいずれも小破片である。

馬込Ⅱ遺跡

馬込Ⅰ遺跡より約300m東の、南向きの斜面上に位置する。幅1mのトレンチを南北方向に7本設定し、調査した。東から2本目のトレンチから赤褐色土器、須恵器が出土し、1号土壙、ピット群、1号溝跡が確認されたため、トレンチを拡張した。

1号土壙

長軸約1.6mの楕円状の土壙である。確認面からの深さは約10cmと浅い。埋土には、炭化物、焼土ブロックが混入していた。埋土から、赤褐色土器、須恵器が出土した。第図2は、赤褐色土器の环である。焼成は不良で、土器表面は非常に脆い。ロクロ目が細かい。底部の切離しは回転糸切りであり、無調整である。

1号溝跡とピット群

1号溝跡は幅約2m、深さ約1mであるが、溝の底部は溝の掘り込み面の中央から東側にずれている。埋土からは、炭化物、焼土ブロックが混入していた。埋土から、赤褐色土器、須恵器が出土した。

1号溝跡の埋土を掘り込む形でピット群が確認された。性格等は不明である。

造構外出土遺物

赤褐色土器、須恵器が出土した。割合は、赤褐色土器が、圧倒的に多いが、焼成は不良でいずれも小破片である。

馬込川上山遺跡

馬込Ⅰ遺跡の東側約200mの丘陵上に位置する。幅1mのトレンチを南北方向に5本、東西方向に1本設定する。表土の堆積は非常に薄い。東から4番目の南北トレンチから土壙が確認され、赤褐色土器が出土したた

め、拡張し土壌を完掘するとともに、東側に隣接してトレンチを追加し、周囲に遺物の出土が認められないことを確認して調査を終えた。

1号土壌

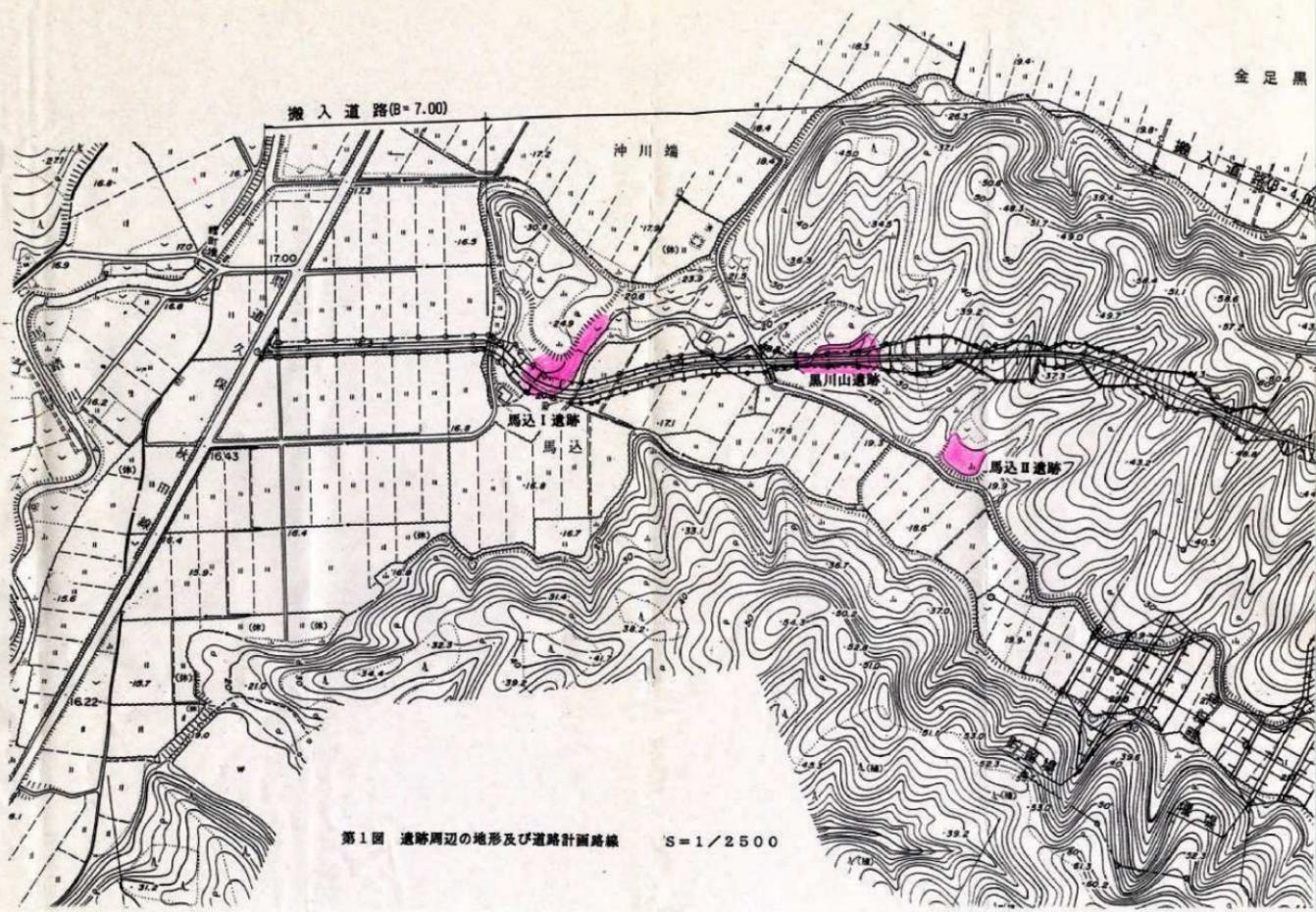
長軸約2mの梢円状の土壌である。確認面からの深さは約30cmであり、埋土内には炭化物が面的に堆積していた。埋土からは、赤褐色土器、須恵器、磁器、フイゴの羽口、砾石等が出土している。赤褐色土器は大半が小破片であり、焼成は不良、表面の剥落が激しい。

第10図の1は、台付の赤褐色土器の底部、2は赤褐色土器の坏底部である。ともに表面の剥落が激しい。3は染付の磁器、4は白磁の小破片である。ともに產地、年代等は不明である。5はフイゴの羽口の小破片、6は円形の砾石である。

遺構外からの遺物の出土は認められなかった。

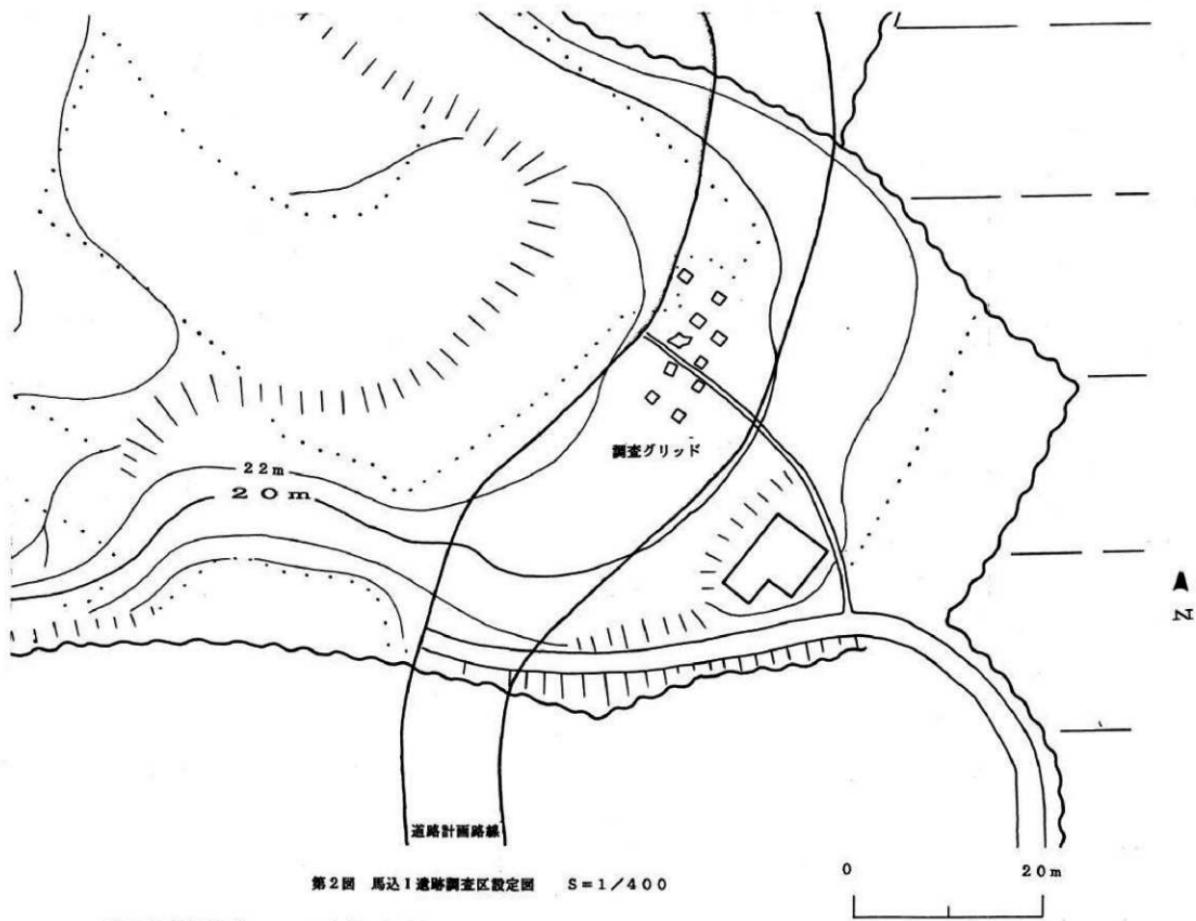
馬込Ⅰ遺跡、馬込Ⅱ遺跡、黒川山遺跡とともに、調査対象面積が限定され、また、確認された遺構、遺物も少なく、遺跡の性格等は、明らかにできなかつたが、遺物から、年代的には、古代を中心とした遺跡と考えられる。

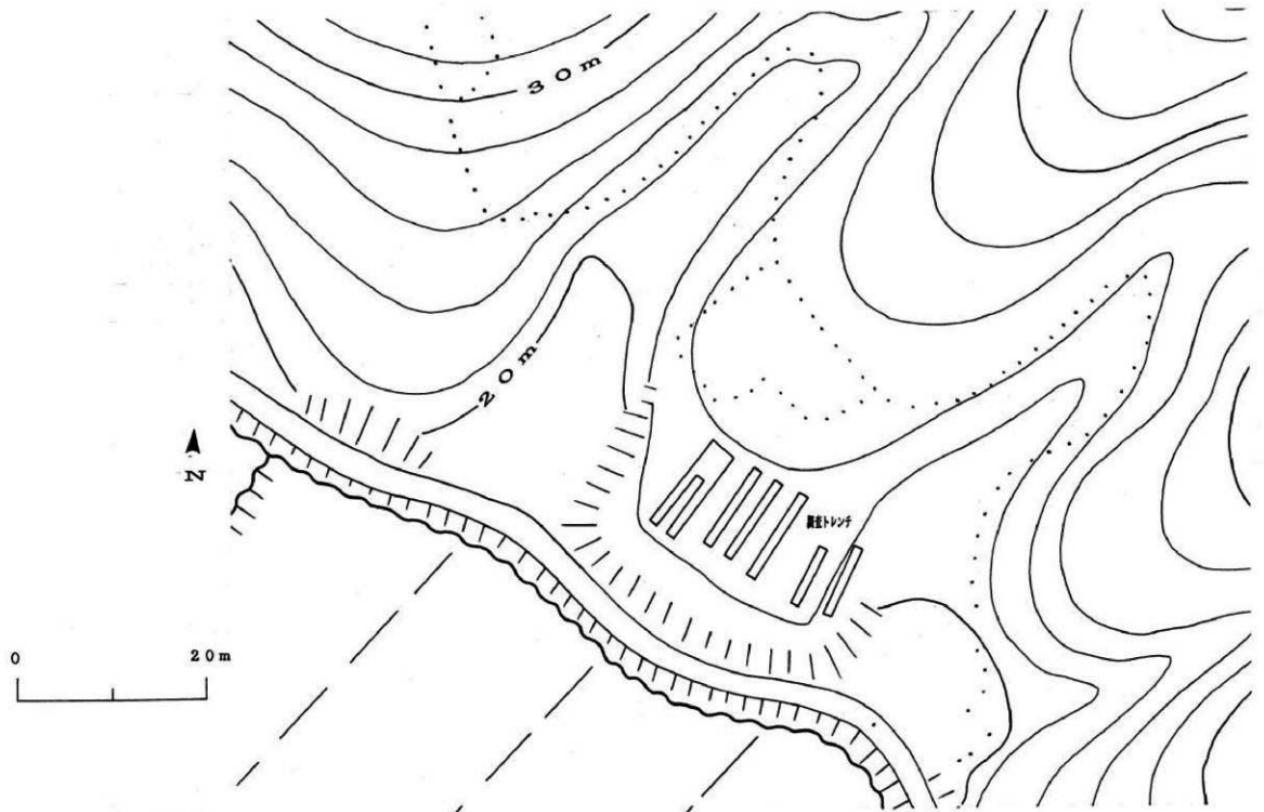
金足黒



第1図 道路周辺の地形及び道路計画路線

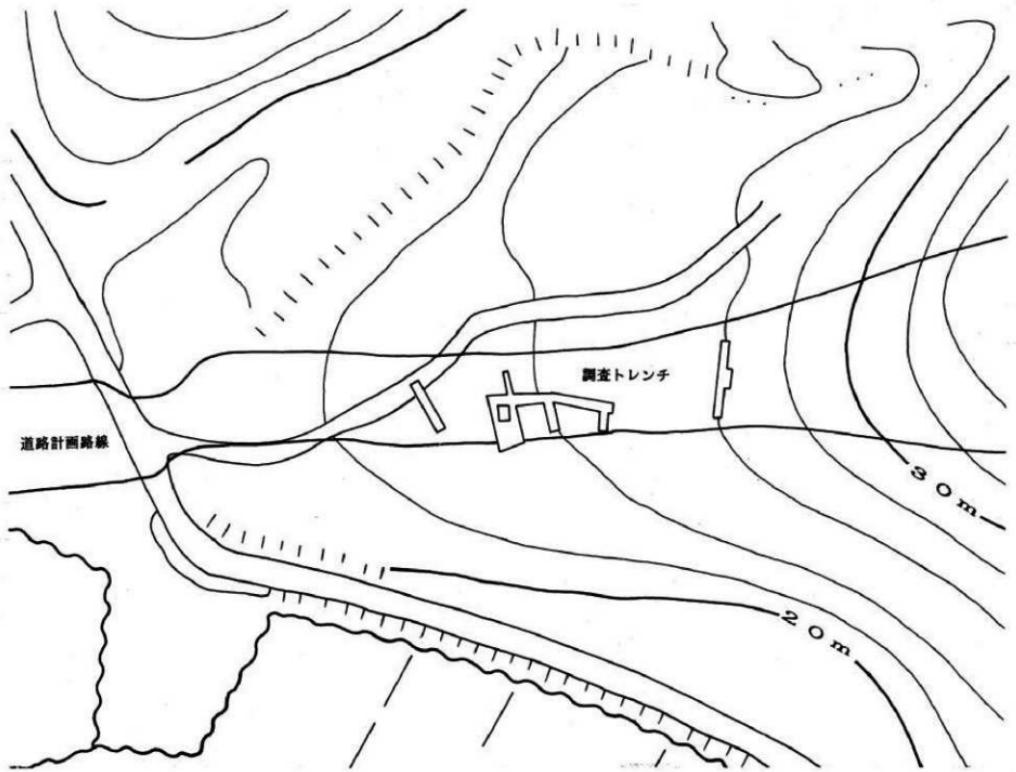
S = 1 / 2500



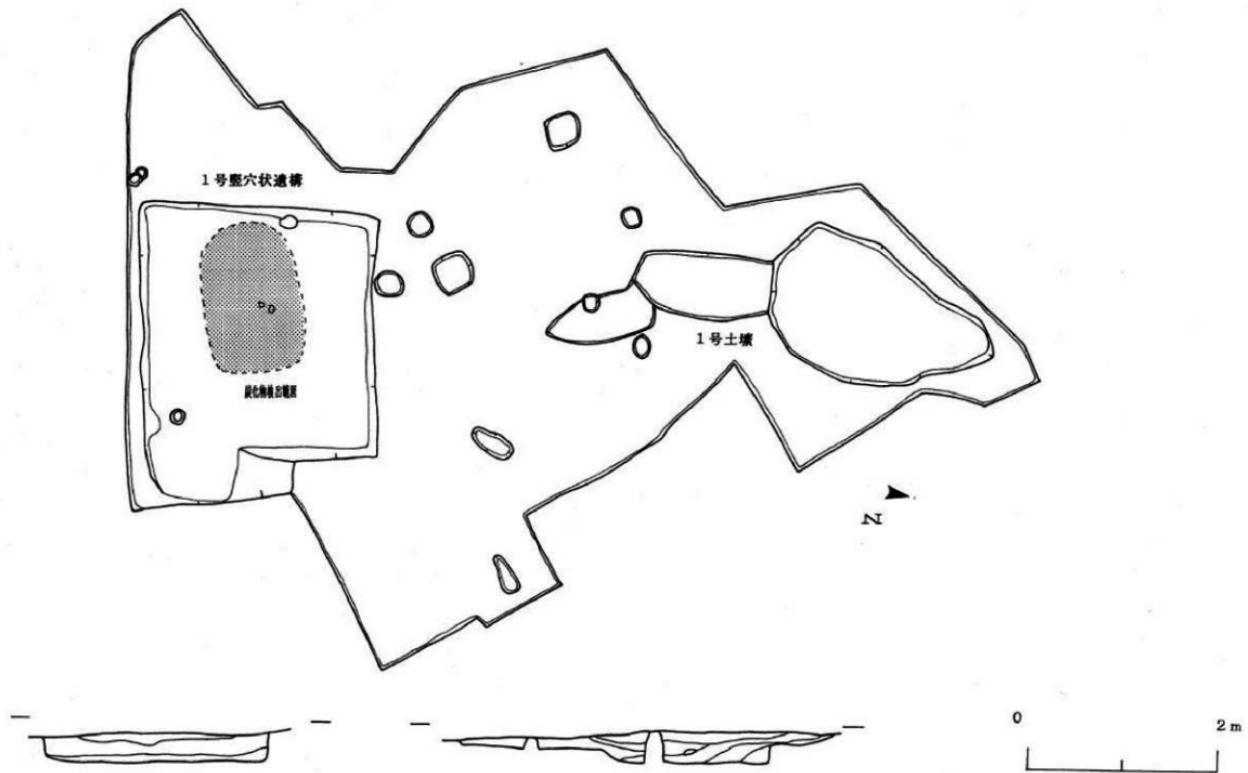


第3図 馬込Ⅱ追跡調査区設定図

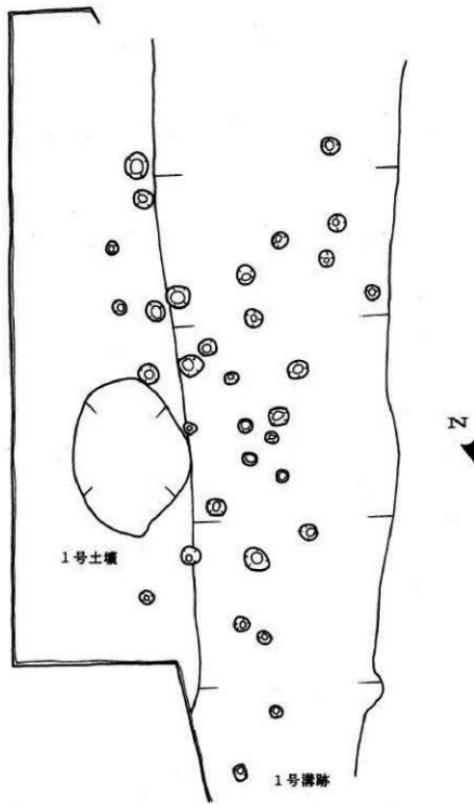
S = 1 / 400



第4図 黒川山遺跡調査区設定図 S = 1 / 400

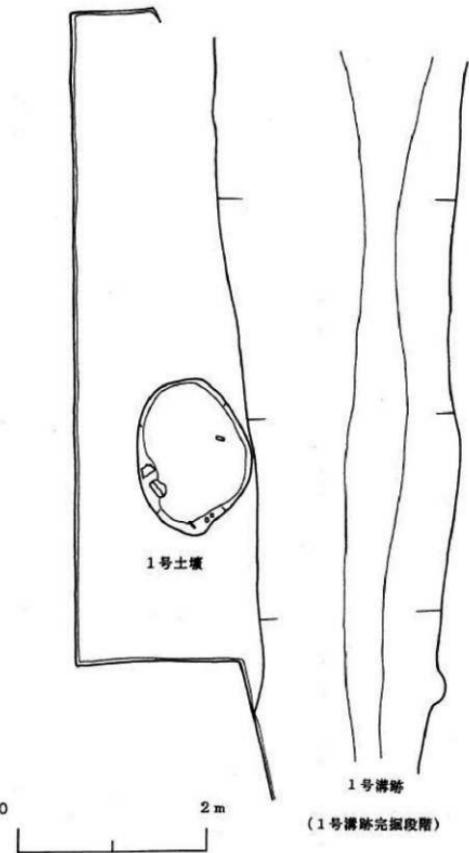


第5図 馬込1遺跡遺構配置図 S = 1 / 40

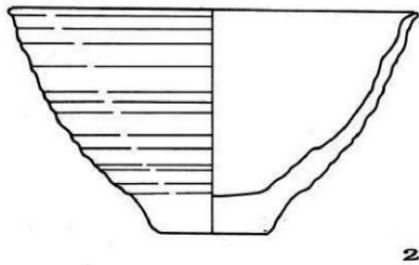
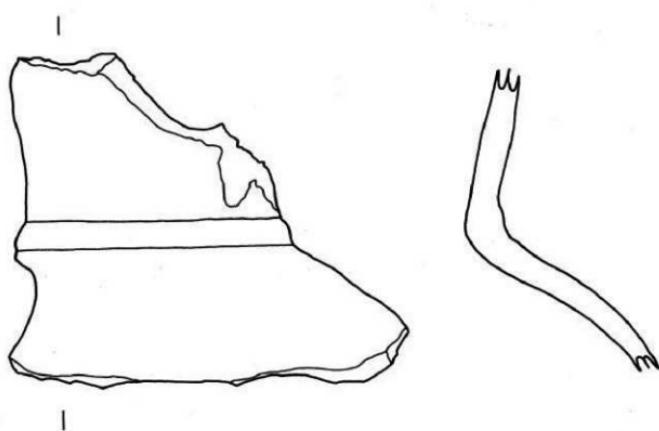


第6図 馬込II遺跡遺構配置図 (1号溝跡検出段階)

S = 1 / 4 0



(1号溝跡発掘段階)



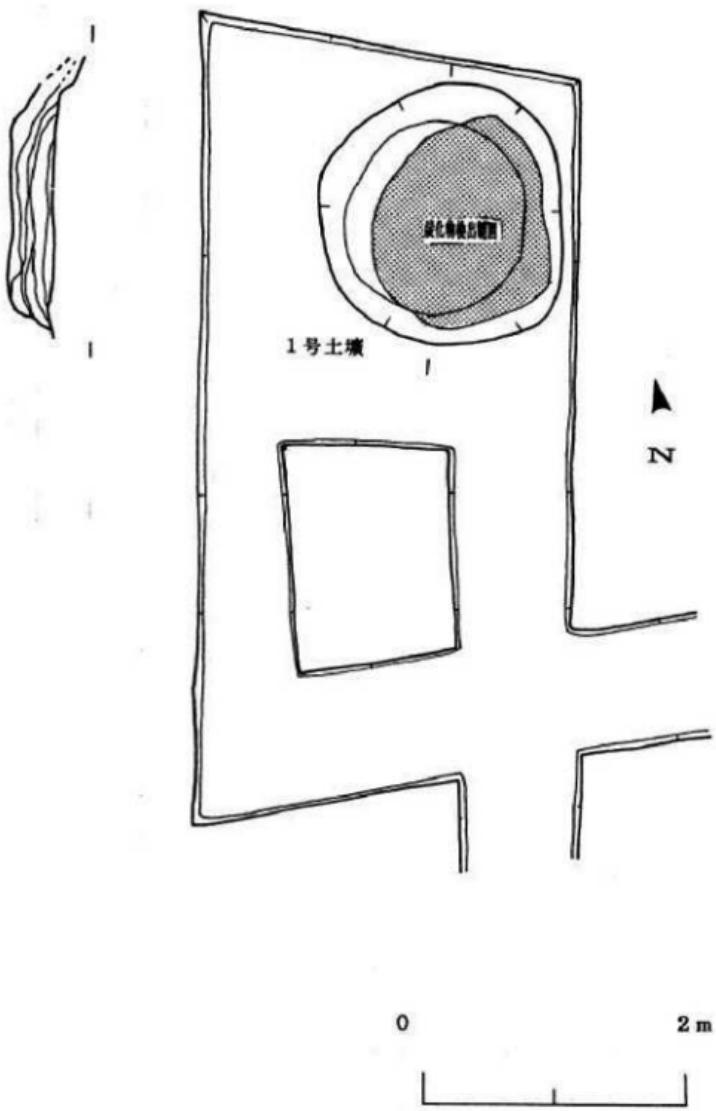
第7圖 馬達I-II遺跡出土遺物

S = 1 / 1

,0

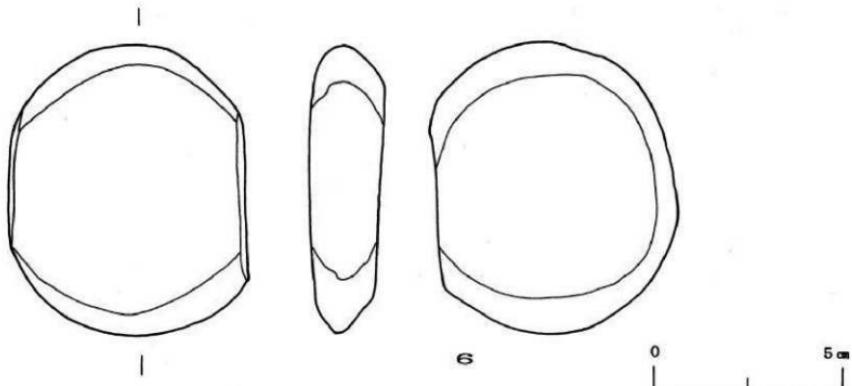
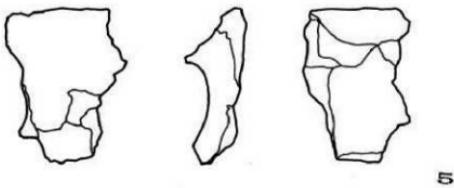
5 cm





第8図 黒川山遺跡遺構配置図

$S = 1 / 40$



第9図 黒川山遺跡1号土塁出土遺物 S=1/1



馬込 I・II 遺跡、黒川山遺跡遠景 (W→E)



馬込 I 遺跡近景 (E→W)

写真図版 1



黒川山遺跡近景 (W→E)



馬込 I 遺跡調査風景

写真図版 2



馬込 I 遺跡完掘状況



馬込 I 遺跡堅穴上遺構

写真図版 3



馬込 II 遺跡調査区全景



馬込 II 遺跡遺構検出状況

写真図版 4



馬込Ⅱ遺跡遺構完掘状況



黒川山遺跡調査風景

写真図版 5



黒川山遺跡トレンチ (W→E)

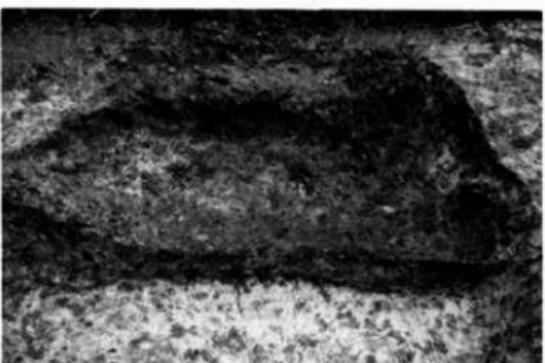


黒川山遺跡トレンチ (S→N)

写真図版 6

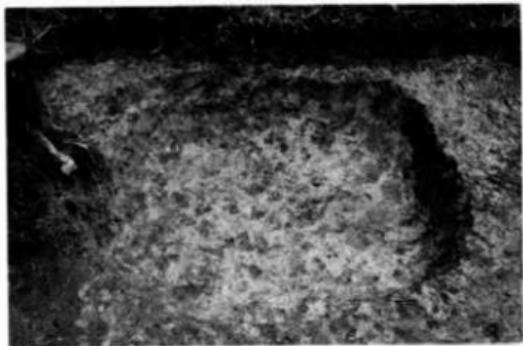


黒川山遺跡 1号土壤埋土断面



黒川山遺跡 1号土壤炭化物検出状況

写真図版 7



黒川山遺跡1号土壤完掘状況

写真図版8



7-1



7-2



9-1



9-2



9-3



9-4



9-5



9-6

写真図版9 S = 1 / 2